

厚生労働省 外口 崇 健康局長 殿

「標準的な健診・保健指導の在り方に関する検討会」において、検討中である肝機能（AST、ALT、 γ -GTP）の判定値について、以下のとおり、提案させていただきます。

異常値であるとの情報提供が必要である検査値

AST 30 IU/l 超
ALT 30 IU/l 超
 γ -GTP 50 IU/l 超

上記の内、受診勧奨が必要な検査値

AST 50 IU/l 超
ALT 50 IU/l 超
 γ -GTP 100 IU/l 超

平成 18 年 7 月 5 日、8 月 23 日、11 月 22 日の 3 回の班会議で、文献収集、依頼講演、各班員のアンケート調査の結果を検討し、上記の判定値を決定いたしました。

いくつかの研究の結果から、健常成人の AST の基準値上限は 30 IU/l、ALT は 25 IU/l 程度と考えられます。しかし、AST と ALT は便宜上、同じ値の 30 IU/l を共通の基準値上限と設定しました。受診勧奨が必要な異常値に関しては、肝疾患患者の治療において、通常、AST、ALT 値を基準値上限の 1.5～2 倍以下にすることを目指すことより、50 IU/l を超えたら医療機関受診を勧奨することとしました。 γ -GTP は飲酒量をよく反映しますが、必ずしも肝機能障害を直接反映するものではありません。しかしながら、 γ -GTP が 50 IU/l を超えると心疾患の危険が増すことが報告されていることから、51 IU/l 以上を情報提供が必要な値としました。受診勧奨値に関しては、経験的に γ -GTP が 100 IU/l を超えると AST、ALT の高値が高頻度に認められることから、この値を超えたら医療機関受診を勧めることとしました。

平成 18 年 12 月 20 日

日本消化器学会肝機能研究班

世話人 井廻 道夫

